

光葉ワーキングクラブメールマガジン



<2023年 7月号>

193号 2023.07.03 配信

夏が近づいてきました。娘の学校ではプールの学習も始まり、サイズアウトした水着やもう使わなくなった持ち物をどうするか、夏休みに向けて少しずつ整理しています。

政府の「経済財政運営と改革の基本方針 2023」では、「第3章 我が国を取り巻く環境変化への対応」において、「こども用製品等の事故防止」や、「消費生活相談のサービス向上への体制再構築」などが盛り込まれました。未来を担う子ども達に、今の私たちの消費・社会課題を先送りしないよう、環境変化に対応していく大人でありたいです。 (福祉共創・消費ネットワーク)

■同窓会だより

◇2023年度幹事会開催 6月17日(土) 11:00~12:30 学園本部館 3階大会議室

新幹事5名を含む83名の幹事と本部役員など計98名が出席しました。金子朝子会長の挨拶に続いて坂東眞理子総長にビデオメッセージでご挨拶いただきました。同窓会活動の報告、新幹事の紹介、附属中高部光葉会の濱田由美会長がクラス会開催の工夫について話しました。

そして、テーブル席での交流やお楽しみ抽選会を行い、今後も学年会・クラス会・ゼミ会のパイプ役としての活動をお願いし、閉会しました。



会長中央と新幹事



※出席幹事の方に集合写真をプレゼントします。件名に幹事会集合写真希望、本文に氏名・卒年・学科を記入し、事務局にメールでお申し込みください。メールに写真を添付してお送りします。

◇光葉都奨学金 大学院社会人入学者奨学金を授与しました

本学卒業生で、本学大学院修士課程・博士前期課程に入学するまでに5年以上の職務経験、またはボランティアなど社会貢献活動をした者に50,000円を給付する制度です。

生活機構研究科生活文化研究専攻に入学された松本育実さんと板垣美玲さんに授与しました。

◇光葉緑奨学金授与式 7月14日(金) 12:20~12:40 学園本部館3階中会議室

北海道・四国・九州・沖縄地方出身者の学部2年~4年次の学生で、勉学と人格形成に励んでいると認められた者に年額50,000円の奨学金を給付する制度です。

◇秋桜祭 バザーの出店グループ募集 11月11日(土)・12日(日)

本年度の秋桜祭は、対面での販売が可能となり、光葉同総会も参加することになりました。同窓会のバザーで販売できるものは、手作り品、贈答などの新品、常温で食品内容表示と賞味期限が明記されている完全個包装された市販品(蕎麦は不可)です。出店販売についての詳細は、同窓会事務局にお問い合わせください。 TEL 03-3421-7713 E-mail:dousoukai@swu.ac.jp

◇支部会開催予定 ※支部会の詳細は、同窓会事務局にお問い合わせください。

7月13日(木)和歌山県支部

8月20日(日)岐阜県支部

9月24日(日)山形県支部

■ 広げよう光の葉

小島 佳子 さん

1989年 英米文学科卒

「昭和の桜に導かれ」

今年、次女が昭和女子大学附属昭和中学校に入学、華やかな春を迎えることができました。人見記念講堂で、「朝風かおる 武蔵野の 緑が丘に 春なごみ…」と懐かしい校歌を歌いながら思わず涙が溢れました。1年前はこの春を想像できずにおりました。

私は、昨年3月に進行性の「乳がん」と診断され、5月に左乳房全摘手術、8月から12月まで抗がん剤治療、今年2月に中学受験本番を迎えるという1年となったのです。抗がん剤治療中、少しでも調子のよい時は、様々な学校の説明会に参加しました。その中で昭和中学校は、もし私に万が一のことが起きて、「世の光」となるべく最後まで娘を導いてくださるだろうという安心感を持ちました。素敵なお姉様方に憧れた娘は「ママのために自分にできるのは勉強しかない」と、努力を重ね、無事合格をいただきました。入学後すぐに東明学林の学寮生活があり、懐かしい歌を娘が口ずさむのを聞くたびに、自分の大学時代を思い出しました。

手術の翌日は、留学中の長女が現地で卒業式を迎えました。場所は米国カリフォルニア州サンタクルーズ。私は、ボストン昭和ができる前年にカリフォルニア大学サンタクルーズ校の夏季研修に参加したので、長女からこの高校に交換留学があるとされた時はご縁だなと思い、その1年前、コロナ禍の隙間に旅立たせました。

20年近く子育て中心の日々を送ってきた私ですが、新卒で銀行に入行し、国際部勤務を経て、地元の青森県八戸市に帰り英語講師をしていました。そこで勉学の火がつき、29歳でロンドン大学に1年間留学。帰国後は、八戸市に支店を持つ翻訳会社の支店長となり、33歳で東京本社へ転勤。その後、教育ベンチャー企業の立ち上げをしました。しかし、結婚式の1ヶ月前、タクシー乗車時に交通事故に遭い、後遺症治療のためやむなく会社を退職し、専業主婦となりました。その中で自分にできることとして、国際交流ボランティアや東日本大震災の被災地を伝える映画の上映活動などを行ってきました。小さな灯であろうとも、昭和の教えである「世の光となろう」という気持ちがいつもどこかで自分を奮い立たせてきたように思います。そして、英米文学科で学んだ音声学、英語教授法、イギリス文学史はどんな時にも自分らしさを保たせてくれました。昭和での学びが自分の根幹を作ってくれていると実感しています。

抗がん剤の副作用が残り、再発転移の怖さも抱えてはいますが、いつか娘たちと渡英し、イギリス文学の巨匠たちのブループラーク（歴史上の有名な人物が住んでいた家や働いていた場所に設置されている、青いプレート）を探しながら街歩きをしたいという夢があります。どうか治療が落ち着いている今を大切に、来月、思い切って娘の大学視察のために渡英を決心しました。

where there's a will, there's a way（意志あるところに道は開ける）。そう信じて、長く続く治療を頑張りたいと思います。最後になりましたが、和やかさ・細やかさ・温かさを学ばせてくださり、思いやりの心で私達を照らしてくださる母校に心から感謝の気持ちを込めて。 【End】